資料６

（仮称）気仙沼市震災復興計画に係る

キャッチフレーズ　募集要項（案）

１　趣　　旨

気仙沼市震災復興市民委員会では，震災からの復旧・復興に向けた提言書に、提言の趣旨を表すキャッチフレーズを盛り込むこととしています。

このことから、市民委員会委員からの提案に併せ市民のみなさんからもキャッチフレーズを募集するものです。

２　主　　催

気仙沼市震災復興市民委員会

３　対　　象

市民並びに本市出身の方々

４　実施内容

・市民委員会の提言に合った復旧・復興に向けたキャッチフレーズを募集します。
・締め切り後に気仙沼市震災復興市民委員会で審議・決定します。

５　応募期間

平成２３年９月５日(月)から９月 16 日（金）まで　※郵送の場合は締切日必着

６　応募方法

(1)　応募箱
市役所本庁舎、唐桑総合支所、本吉総合支所、各公民館に応募箱と応募用紙を設置します。

(2)　電子メール
気仙沼市震災復興市民委員会のホームページ内にあるフォームから応募してください。
URL：http://www.city.kesennuma.lg.jp/www/fukko_shimin/

(3)　郵送・ファックス・持参
任意の様式に記入し、事務局あてに送付または持参願います。

７　送付先・問合せ先

〒９８８－８５０１　気仙沼市八日町一丁目１番１号　気仙沼市企画部企画政策課
TEL　０２２６－２２－３４０８　FAX　０２２６－２４－８６０５

＜キリトリ線＞　＜キリトリ線＞

キャッチフレーズ 応募用紙

住　所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
連絡先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

キャッチフレーズ
提案の理由

気仙沼市震災復興市民委員会委員からのキャッチフレーズ提案一覧

キャッチフレーズ	提案の理由
リアスの輝き！ 一人一人が　「チーム気仙沼」！！	あの景色、人の流れ、まちの空気を　もう一度、皆の力で取り戻したい。 誰もが、ひとりじゃない。皆、誰もがチーム気仙沼。みんなで、皆で。　そんな思いです
あと 100 年、暮らしたくなる港町	その町に暮らしたいというのは、その町にとって最上位に評価されている証拠。それを“あと１００年も暮らしたい”と思わせる気仙沼になって欲しいし、しなければいけない。最後の“港町”は今後も三陸の港町として復興していく決意表明である。
『チーム気仙沼』 Kesennuma - Building For The Future	市民委員主体にて行った水産業会ヒヤリングから生まれた言葉と、同じく市民委員主体にて立ち上がった Facebook ページの名前。どちらもストレートで感情のこもった言葉で２つ合わせたらさらに良いフレーズになるような気がします。
「ゴーヘイ！けせんぬま」 または 「郷平けせんぬま」	●キャッチフレーズ前提 1. 前向きな内容で復興の力になるもの。 2. 海外も含めて気仙沼以外からも理解や共感、賛同がえられるもの。 3. 短く覚えやすく、そして市民に親しまれるもの。 ●キャッチフレーズ解説 ①郷平 - 郷（さと）に平和が訪れることを願う当て字。（これに大きな意味は無い） ②「ゴーヘイ」とは、船舶関係者が使う「前進（Go Ahead：ゴー・アヘッド）」を意味する言葉で、本市でも漁業関係者に広く使われ、力強く、前向きな言葉です。 出展 ： 広報けせんぬま　2011.2.1 市長コラム ③語源である英語のGo Ahead をそのまま使用して Go Ahead! Kesennuma とすればキャッチフレーズとして海外からも認知される。 ④けせんぬま　（気仙沼は漢字よりひらがなを採用したい。理由は後述のシナリオで） ●シナリオ 例えば、復興の進捗状況を伝える「郷平けせんぬま」という定期印刷物を新たに開始する。 これは市民に親しまれ貴重な情報源として現在活用されている「広報けせんぬま」から復興情報だけを切り出したものである。 広報と郷平と対比させることでキャッチフレーズの浸透と復興の状態の情報共有に活用されることが期待できる。
うっ立つべし！気仙沼	一頑張りした後に、みんなで次に進もうとする時の掛け声のような決まり文句（方言？）。みんなで一斉に腰を上げて先に進む状況に当てはまる。震災から約半年。個々ではなく、「みんなで」動き出さなければならない状況にある現在の気仙沼の状況にマッチングする。

海と生きる	先人たちはこれまで何度も津波に襲われても、海の可能性を信じて再起を果たしてきた。人智の及ばぬ壮大な力としながらも、海を敵視せず、積極的に関わりあって暮らしてきた。それは単に「海で」生活していたのではなく、人間は自然の一部であることを経験的で体得し、対等の関係を築いて「海と」生活していたとも言える。その態度が自然観や運命観、ひいては死生観となった。気仙沼の観念は海にある。いまを生きる世代が再び海の可能性を信じ、復興をなしとげることが犠牲者への供養となり、次世代への希望となろう。理念を超えた観念をメッセージ化したものが「海と生きる」である。 ●第一に、簡潔で分かりやすいものとして考えた。 ●第二に、日本語のみとし、小学校低学年で習う漢字のみで考えた。 ●第三に、フレーズ自体が一人歩きしても分かるものとして考えた。 ●第四に、過去、現在、未来をつなぐものとして考えた。 ●第五に、耐久性のあるフレーズとして考えた。 ●第六に、どんなサブキャッチを入れても通用するものとして考えた。 ●第七に、これまでの議論をすべて包含するものとして考えた。 ●第八に、メッセージ性の強いものとして考えた。
「千年に一度の復興をみせよう！一人一人でチーム気仙沼！」	市民と市の外，市民と市役所，市民同士の連携の重要性への気づき。市民一人一人の心と行動を集結する復興への願いを込めて。
「千年に一度の災害を　千年に一度の幸運に！みんなで復興・チーム気仙沼!」	被災に負けずこの経験があって良かったと思えるほどの復興を果たしたい。市民みんなで復興する前向きな気持ちを高めたい。
「いま，人が支える歴史を創る　人の心が創り出す　復興気仙沼」	我々が歴史を生きて創っていることに気づいてほしい。人の心が復興の道中には必要で人の心が歴史と復興を創っていることへの気づきを込めた。
「未来をつくる、みんなでつくる、気仙沼」 または 「みんなで未来をつくる気仙沼」	たくさんのものを亡くした今，皆の心と力を合わせ支え合い，これからの未来をつくることのできる街，ひとつひとつの可能性を実現していきたいと祈って，このキャッチフレーズを考えました。